

自己評価票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの一つとなったグループホームの役割を確認し、理念の中の『共に暮らす幸せ』を地域と共にの意味も含んで目指していくものとした。	<input type="radio"/>	より具体的に、地域との関係を謳ったものへ作り変えることも検討していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内各所に理念を掲げ、常に念頭において介護に臨むように心がけている。課題が生じたとき、判断に迷うときなどにカンファレンスを行う際には、判断の基準を理念に置いて検討を行っている。	<input type="radio"/>	理念の表現を地域との関係を重視したものにし皆が共有し、その上で今後も実践に向けた取り組みを行っていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族に向けては月に1回発行している『ふれあい通信』の中で、または家族会の機会にホームの考え方を伝えている。また運営推進委員の方には、会議の冒頭でお話をして理解を得ると共に、地域への橋渡しをお願いしている。地域向けの介護教室や、実習生受け入れの際にもできる限り触れるように心がけている。	<input type="radio"/>	もっと理念の浸透に向けた取り組みは行ってきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	立地の問題もあり、日常的な付き合いを築くことが難しい。散歩していても人に会うことが少ない。施設にボランティアに来ていただいた方には声を掛け、その後の交流につなげるよう心がけている。	<input type="radio"/>	運営推進会議の設置から2年目を迎え、メンバーの追加を図り、よりいっそう地域との橋渡しとしての役割を担っていただけるようにした。その方たちの力もお借りして、こちらから出向いたりすることから交流の機会を増やしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	食材の購入などに、地元の専門店や農協を利用している。JAのイベントや地元小学校の運動会に出かけたりしている。しかし、町の一員として参加するところまではいっていないのが現状である。	<input type="radio"/>	現状ではまだ難しいところも多いが、地域の一員として地域活動に参加する機会を増やしていくと共に、地域での役割を果たしていけるようにしていきたい。

グリーンクリスタルONE

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取 組んでいる	地域向けの認知症の勉強会や高校生、中学生を対象に 実習や講義を受け持っている。 ショートを受け入れができるような体制を整え、7月 から開始した。7月に別ユニット(TWO)に1週間の受 け入れを行い、ONEも協力して総力を挙げて対応した。 (地元の大規模施設のショート利用が困難な方への対 応であった)	○	今後も機会のあるごとにショートを受け入れを行って いく。また、共用型通所介護の開始も検討中である。 地域の方々への介護教室や学生の受け入れは積極的に 行っていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	勉強会の折に、グループホームでの自己評価・外部評 価の意義、行政の実地指導や介護情報の公開制度との 違いを理解し、職員全員で取り組むようにしている。 今年度は、地域密着型のサービス評価となり、意味も 内容も変わったことを理解するように努め、違う視点 からの見直しを図った。	○	評価をより生かすその後の取り組みを大切にしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	2年目を迎え、形式的にならず実のあるものとなるよ うに、新たな委員の選定も行った。グループホームの 活動を理解していただくとともに、地域とグループ ホームの双方向的な話し合いの場にするを目標し ている。先年度の評価結果を見ていただき、その後の 活動の報告も行った。	○	実質的に機能する運営推進会議はこれからだと思っ ている。今回の自己評価、外部評価を有効に活用し活 発な意見交換・討論の場にしていきたい。地域との関 係づくりのよいきっかけにしたいと考えている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	毎月、グループホームの広報誌『ふれあい通信』を複 数部署に送り連携をもっている。随時連絡し、不明な 点などを聞いたりしているが、制度的なものや運営上 の問題に限られており、質の向上に向けた取り組みに は至っていない。	○	『質の向上に向けた取り組み』という観点からの連携 をい図る方法を相談していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会の折に、権利擁護に関する勉強も行ったこと がある。必要な方には、助言したり、利用に向けた支 援を行っている。現在、成年後見制度利用者1名、地 域権利擁護事業者1名がいる。	○	職員の入れ替わりなどもあるので、定期的な勉強によ り、全員が知識を持ち支援に生かせるようにしてい きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	研修会などに参加したり、ホーム内の勉強会で学んで いる。『自分がされて嫌なことは虐待の可能性があ る』という考えのもと、虐待の防止に努めている。	○	継続的に勉強会などで取り上げ、今後も虐待防止に努 める。法律上の正しい理解をしていくことも行って いきたい。

グリーンクリスタルONE

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族代表の方だけでなく、その他のご兄弟やご家族にも同席いただき説明を行っている。契約内容の確認だけでなく、グループホームでの生活でのリスクやターミナルについての考えも説明し、ご家族の意向や希望も聞いている。	○	今後も丁寧な説明と、ご家族の疑問や不安に応じて生きたい。
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の何気ない会話の中や、買い物などに行く際に個々に話を聞いて、不満や苦情を汲み取るように心がけている。うまく表現することのできないご利用者も、態度や表情などから意向を伺うことを心がけている。受け止めた情報は共有に努め、改善のためのカンファレンスを都度行っている。苦情が少ないことは単により介護ができていたとは考えない。特にグループホーム利用者は、表現することが難しい方が多い	○	外部の第三者（相談員等）を受け入れることを検討していきたい。また、運営推進会議のメンバーの方も直接利用者の要望を聞いてもらえるようにしていきたい。苦情が少ないことは単により介護ができていたとは考えない。特にグループホーム利用者は、表現することが難しい方が多い
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1度発行するお便り『ふれあい通信』において、グループホームの様子やご利用者の暮らしぶり、職員の異動などの報告を行っている。個別の様子や健康状態は必要に応じて連絡を取り、面談の機会も作るようにしている。また担当者が手紙を書いている。金銭管理は、法人の管理規程に基づいて、四半期に一回出納簿を送っている。	○	担当者からご家族への手紙の活用を増やしていきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情申し立ての箱を設置し、その他の苦情相談窓口も契約時に説明を行っている。その他に家族会を設け、会長が相談窓口を受け持ってもらっている。家族会会長は、運営推進会議の委員も受けていただき、家族の代表者として意見をいただいている。	○	実際に家族会から苦情が上がってくることはほとんどない。家族会には、事業者が退席して家族同士で話す機会を持って、本音が伝わるようにしていきたい。苦情が上がらないことは、苦情がないこととは違うと認識し、より一層サービスの向上を目指したい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に毎月開催するスタッフ会議の機会に、運営に関しての方針や、具体的な利用者の受け入れについて職員に説明を行うと共に職員の意見を聞き、皆の総意を基本として決定している。管理者や運営者の意見を押し付けることなく、一人ひとりが考えるグループホーム運営を目指している。	○	スタッフ個別の面談を定期的実施することを、管理者・責任者は考えている。現在は、全員とは行っていない。個々の職員の考えを個別に把握する機会として、また皆に同じ目的で仕事ができるように今後実施していきたい。不満や苦情を解消して、より働きやすい職場を実現していきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者の状態や、突発的な状況の変化に合わせて勤務時間の変更等を行っている。そしてその必要性を職員が理解して、協力体制がとられている。	○	法人全体の勤務体制の決まりはあるが、グループホームの特性にあわせ、またユニットごとの状況にあわせ、よりフレキシブルに勤務時間を変更していきたいし、できる体制を整えつつある。

グリーンクリスタルONE

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体での人事異動や職員採用があり、事業所単位で成し得る事に制約はあるが、異動については、必要以外に極力行わない方向で、本部の理解も得られてきている。離職は日頃の不満や悩みの解消に努めており、離職率は低いと考えている。現在在職職員の平均就業年数は4年6ヶ月である。	○	事業所内ででき得る方策をとり、職員が長く継続勤務できるように心がけていく。グループホームの特性を理解し、また法人本部でも理解をしてもらった上での人員配置を進めていきたい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフが、できるだけ均等に外部研修に参加できるように配慮している。受講した研修の報告は、報告書作成とともに、勉強会で講師となりスタッフで共有するようにしている。また、月に1回の事業所内の勉強会や自施設内で実習を行うなどして日常的に学ぶことを念頭においている。	○	スタッフの習熟度に応じた研修を計画的に行っていく工夫をしたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設当初より、長野県宅老所・グループホーム連絡会の会員として参加している。今年5月より、長野圏域のグループホームをネットワーク化する取り組みを行い、現在19グループホームが参加している。ホーム長が、その世話役を担当している。また近隣のグループホームで、以前より連絡を密にしているところもある。	○	地域グループホームのネットワークを活かし、連携や協力体制をとっていくとともに、相互訪問や協働した研修や勉強会、職員相互の交流により質の向上を目指していきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に数回、定例的に飲み会を行いストレスの解消を図っている。また、機会あるごとに、管理者やホーム長と話し、問題解決を図っている。	○	スタッフ同士で食事会などを行ったり、運動をしたりしてストレス解消を図る。定期的に個人面談などを行い、悩みや不満をためないようにしていったり、他のグループホームとの交流によって、ストレスの軽減を図る。規則どおりに休憩時間が取れないが、少しでも仕事から離れられる時間を設けていきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現在見直しが行われているが、評価制度の導入を行った。職員の資格取得や職員の状況を把握した上で、施設内の人事異動を検討している。年に一回の定期健康診断、2回の夜勤者検診を行い、健康管理を行っている。	○	職員の実績や努力を正當に評価できる仕組みを再構築し、向上心を持って働ける職場環境を整えていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を検討する段階から、できるだけ詳しく本人から情報を集めるように努めている。本人の考えや趣味趣向など、本人の言葉を大切にしている。可能であれば家を訪ね、本人の話しやすい環境で話を聞くようにしている。本人の不安や混乱も考え、徐々に環境に慣れていくように配慮している。「まず聞く」ということを大事にしている。	○	現在、ショートステイが可能となっており、通所介護の導入も検討している。様々な形態から馴染んでいただき、不安を解消して、信頼関係を築いていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からも話をよく聞き、本人の思いと家族の思いの違いを知り、信頼関係の構築を考えている。家族だけから話を聞く機会も多くもち、本音をくみ取るようにしている。聞く姿勢を一番に大事に考えている。	○	複数回の面談の機会を持ったり、同居家族以外の関係者の話を聞くなどして、幅広く意向を汲んでいく努力を続けたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満室の時に、相談や申し込みを受けても、そのままにせず、在宅介護支援センターと協力して、その時の状況に応じたサービス情報を提供したり、近隣のグループホームに連絡を取り、紹介をしたりしている。場合により、ショートステイとして受け入れることもできる体制を整えた。	○	グループホームの横のつながりを強化して、ネットワーク化することによって、地域の中で困難を抱えている人の情報を共有していく。通所とショートの実業展開により、緊急時の体制を整えられないか検討していく。複合施設の利点を活かし、調整を図っていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	在宅からの利用者には、昼間だけの利用からでも可能なことを伝えて、本人もご家族も不安なく馴染んでいけるような提案も行っている。複合施設内のケアハウスからの入居者には、日頃からお茶を飲みにきたり、行事参加などの交流により、馴染みの関係づくりをしている。入居に際しても、ケアハウスの居室をしばらく残し、本人の様子を見ながら対応するようにしている。	○	現在、ショートステイが可能となっており、通所介護の導入も検討している。日頃から、様々な形でグループホームを利用していただき、次第に馴染んでいく延長に宿泊や入居があるような取り組みを行ってきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側とされる側を作らないということ、日頃からスタッフ間で確認をしている。一緒に生活する仲間として、同じ時間と空間を共有する者として、ともに喜びともに楽しむように心がけている。また、本人の力を発揮できる場面を作っていくことを重要と考えている。会話の中で、スタッフのほうに慰められたり、励まされたりすることも多い。	○	高齢化、重度化していく利用者でも、サービスを提供する側とされる側だけの関係に陥らないように心がけていきたい。

グリーンクリスタルONE

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族から頂く情報を大切に、または大切にしていることを家族に伝え、ともに支援を考える姿勢を持っている。ケアプランの中で、可能な限り、家族に担ってもらう役割をできるだけ具体的に盛り込むようにしている。	○	ご家族とより対等の関係で、利用者の支援を考えていくことを進めたい。訪問いただいた折に、本音で語り合い協力体制をとれるようにしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	「家族にしかできないこと」を家族に理解していただいて、スタッフはそれを支援する姿勢をとっている。本人と家族が関わる機会を多く採っていただけるような機会を考えたり、それを支援したりしている。家族の関係、それぞれの思いは、基本的な情報として、スタッフは共有している。	○	スタッフにお任せで、「なんでも結構です」というご家族もいて、次第に疎遠になっていくケースもある。家族関係に配慮しつつ、よりご家族の役割を考えていただく機会を増やしたい。家族は安心して『いいとこどり』ができるように伝えて、家族の関係を深めていただくようなグループホームの役割を果たしていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家に帰ったり、墓参りに行ったり、馴染みの店で買い物するなどのできる支援を取り入れている。ご家族にも理解いただいて、協力を仰いでいる。日々の会話の中にも、なじみの場所や人の名前を話題として提供し、関係を途切れさせないように考えている。	○	より機会を増やしていけるような工夫をしていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	9名の利用者同士の関係は、それぞれ利用者同士で築いていくものであり、職員はそれを十分把握していくことが大事だと考えている。必要以上の介入を避け、それぞれの人間性や長年培ってきた力、現在の持てる力を生かして関わり合いを持っていけるようなしえんを考えている。	○	認知症のレベルの違いにより、孤立する利用者がないように配慮していく。排除されてしまうのではなく、助け合って暮らしていけるようなグループホームにしたいと考えている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設内で住居を替わった利用者には、会うたびに声をかけたり、可能であればグループホームに来てお茶を飲んだり、こちらの散歩のときに、利用者同士あっていたりしている。他施設に移ったご利用者のご家族が、ボランティアを継続していただいたこともあった。	○	関係が継続できるのは、まれなケースかもしれない。今後はご家族に伝え、継続的なフォローを考えていきたい。特にショート利用者は、その場限りでなく、関係を継続していくことを大事にしていきたい。

グリーンクリスタルONE

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式によるケアマネジメントを取り入れて、本人の意向を汲み取る努力をしている。本人の言葉を大切にし、その中にこめられた思いを探っていく。チームでカンファレンスを行い、様々な視点から検討を重ねている。	○	今年度、アセスメント、ケアプラン作成、モニタリングの一連の流れの見直しを考えている。より本人の思いや意向を把握し、実現していきけるような仕組みを作り、積極的な取り組みを行っていききたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談を行ったり、実際に生活している場所を訪ねて、本人と家族や関係者から、情報を収集し把握に努めている。情報はセンター方式を活用してまとめ、様々な角度からこれまでの暮らしや人生やその人らしさをつかむ努力をしている。	○	入居後も情報収集に努め、確実に共有していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の暮らし方、生活パターンなどを把握して1日の流れの中でケアをするように心がけている。記録は1日の利用者の様子や言葉を重視した記録をとるように心がけ、その中から本人の持てる力を見出すようにしている。	○	個々の事柄だけでなく、それを総合的に把握していくことをより進めたい。そして1日単位、1週間単位、1ヶ月単位、1年単位の変化をつかんでいけるようにする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が中心となって、アセスメントからケアプラン作成へとチーム全体が関わっている。ご家族の意向も反映させ、可能な限り本人の意向も汲み取ったものにするように努めている。計画策定に当たっては、現在センター方式を活用している。	○	日々の介護とケアプランを連動させていく記録方法や、状況に応じてきめ細かくプランを見直していくようなケアマネジメントの組み立てを再検討中。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況が変われば、見直し時期に関係なくケアプランを作成しなおしている。状況の変化については、日々カンファレンスを行い、必要に応じて短期（1週間単位から）のプランも策定するようにした。短期プランも1週間単位で評価を行っている。定期では、3ヶ月に1回の評価と見直しを行い、6ヶ月で全面的な改定を行っている。	○	日々の介護とケアプランを連動させていく記録方法や、状況に応じてきめ細かくプランを見直していくようなケアマネジメントの組み立てを再検討中。

グリーンクリスタルONE

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録と健康管理記録を個別に作成して、情報の共有に努めている。特に変化のあった事項についてはカンファレンスを行い、個別のケア記録の裏面に記入したり、個別のファイルに綴じたりして誰もが把握できるようにしている。	○	今後も工夫を重ね、しっかりとした情報把握と共有に努めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者には、看護師勤務による医療連携体制を整え、ターミナルケアも実践している。地域に向けた多機能化を目指しており、今年度からショートステイの機能を追加した。現在、通所に向けたモデルも実践しており（ケアハウス利用者の受け入れなど）、デイサービスも付加した形で地域の認知症介護の一翼を担いたいと考えている。	○	取り組みを継続し、デイサービス事業を実践に移したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練への参加、ボランティアによる催し、手伝い、地域の保育園、小中高生との交流などを行っている。運営推進会議のメンバーにも民生委員やボランティアの方に入ってもらって協力いただいている。	○	運営推進委員の方たちを通じて、より地域の方との協働の体制を作りたいと考えている。今後、委員に消防、警察の方にも加わっていただきたいと考えている。継続的、日常的に協力いただけるボランティアの方を増やしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具利用の、リハビリ方法、鍼灸マッサージの利用を相談したりしている。実際に事業者サービスを受けている利用者もいる。	○	どんなサービスがグループホームでの生活に活用できるか、広く検討していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に、地域包括支援センターの職員に加わってもらったことによって関係は深まったが、日頃から協働するところまでは至っていない。アドバイスをもらったり、問い合わせを受けたりをしている。	○	成年後見制度利用や、地域ネットワークづくりに関して協働していけたらと考えている。運営推進会議での関係を基盤に連携を図っていきたい。

グリーンクリスタルONE

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を継続していくことを勧めると共に、当グループホームと複合施設の関係や医療機関との関係を説明し、選択していただいている。また、その後の状況に合わせて変えていくことも行っている。当法人の診療所医師や嘱託医師を主治医としているケースが多い。	○	かかりつけ医、とりわけ認知症状を見てきた医療機関との連携を図っていくメリットを家族に承知していただき、ご家族の協力をお願いしていく。また、当法人医療機関やその他の医療機関を利用する時も、本人やご家族の同意と納得をもって行うことを再確認したい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在主治医は内科医だが、必要に応じて専門機関につないでいくようにしている。以前、利用者の関係で相談した専門医の支援を受けられるように考えている。	○	現在は、認知症専門医や専門的な助言、相談に乗ってもらう医療機関が確保されていない。早急に地域の中で確保していきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護職員を1名以上確保することで、医療連携体制を整えている。日常の健康管理、服薬の管理、医療機関との連絡、非常時の体制をとっている。また、いつでも気軽に相談できるので、職員の医療、健康管理、緊急時判断力の向上に繋がっている。	○	今後もこの体制を維持し、スタッフの知識、技術、判断力の向上に繋げていきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の場合多くは協力医療機関である県立須坂病院で、地域連携室を通じて利用者の状況をつかむようにしている。認知症のご利用者は、入院によるダメージが大きいことを最大限考慮し、情報の提供を行うと共に、入院期間中の支援も考えている。入院後の生活の準備を整え、そして可能な限り早期に退院し、元のグループホームでの生活が継続できるようにしている。	○	今後も医療機関との連携をとりながら、早期退院に向けて取り組んでいく。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制をとるにあたり、ターミナルに関する指針を作成し、利用者家族に説明すると共に、新規に入居する場合契約時に説明を行っている。また機会あるごとにご家族と話している。その状況になった時は改めて関係者と話し合い、方針を出している。ターミナルに関するケアプランを作成し、看取りを行ったケースもある。	○	ターミナルケアに関する勉強や、スタッフの共通意識の構築は、継続的に行っていく必要がある。悩みや不安を持ちながらも、皆が取り組もうとする姿勢を確認していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人ご家族の意向を踏まえて対応していくことを、ターミナルに関する指針とし、関係者が協議の上で納得し、安心して終末期を過ごせるように考えている。それに基づいてケアプランを作成し、できることできないことを明確にしてケアにあたるようにしている。看護職員が中心となって、知識・技術・判断力を身につけられるようにしている。皆が納得して最期を迎えられることを第一と考える。	○	ターミナルケアに関する勉強や、スタッフの共通意識の構築は、継続的に行っていく必要がある。看護職員が中心となって、精神面も含めた勉強や研修を行っていく。

グリーンクリスタルONE

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	リロケーションダメージを最小限にすることを考えて、移動先に基本情報、生活の様子、健康状態などの情報提供を行って、それまでのケアが継続されるように考えている。現在は、センター方式を採用して情報整理をしており、その様式を使った情報提供が中心となっている。	○	今までの住み替えのとき、複合施設内の移動時以外、あまり積極的に情報を求められたことがなく、こちらからの一方的なものに終わっているケースが多い。その後の訪問など、何ができるかを考えていきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人を大切にすることを理念でも謳っていて、プライバシーを護ることについての意識向上を図っている。日常的にチェックして確認や改善を行っている。個人情報保護法が施行された頃には、勉強会の中でも取り上げている。	○	個人情報保護法の理解は、今後の勉強会などで継続して取り上げて、常に念頭においてケアできるようにしていく。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「聞く」ということを大切に考えている。先回りせず、相手の気持ちや意思の表出をゆっくり待ったり、促したりして自身で納得してもらえるように努めている。意思表示が難しくなった利用者にも選択してもらう機会をできるだけ作るようにしている。	○	認知症介護の基本の項目のひとつだと考えているので、よりいっそうの質の向上を目指したい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にケアを心がけている。「業務」を優先せず、利用者の生活を優先し、今すべきことを考えてケアにあたるように心がけている。共同生活と集団生活の違いを理解し、個々のペースやパターンを把握して尊重し、可能な限り個別の対応を心がけている。	○	認知症介護の基本の項目のひとつだと考えているので、よりいっそうの質の向上を目指したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の着たい服を着られるように支援したり、2種類の服から選択できるようにしている。ご自分で選ばれる方でも、季節が分らなくて不適切な服になる場合などは、本人のプライドを重視しながら、フォローしていく。理美容は、施設に来るボランティアの業者を利用しているが、理・美容の選択をしていただいたり、カットの長さなどに配慮して、本人にあったおしゃれができるようにしている。	○	立地上、なかなか昔からの馴染みの店に行くということが難しいが、近所の美容室が協力を申し出ているので、施設外での理髪も行っていきたい。

グリーンクリスタルONE

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を生活の中で重要な要素だと考えている。個々の能力を発揮する場所であったり、コミュニケーションをとりやすい場であったりする。個々のできる部分で、関わっていきけるようにと考えている。食事は、利用者とスタッフが一緒にテーブルを囲んで食べている。必要以上に職員が動き回ったり、手を出すことがないように楽しく、落ち着いた食事が取れることを目指している。	○	現在の取り組みを継続していきたい。どんなことでもいいので、一緒に参加できる食事場面を作っていきたいと考えている。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	病気などにより制限がある場合を除き、個々の嗜好は大切にしている。日常的に飲酒・喫煙される方はいないが、話題の中に出てきたときは、食事にお酒を提供したり、行事の際にもお酒を楽しんでいただくようにしている。	○	事業所側が提供する機会を作らないから、行わなくなったということがないようにしたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンに合わせたケアを基本としている。必要に応じて、集中して排泄状態のチェックを行い、トイレ誘導時期などを検討し、できるだけトイレでの排泄ができるようにプラン化して支援している。安易にオムツ類の使用にならないように、最善の方法を常にカンファレンスしている。	○	トイレでの排泄を基本として、個々に合わせた快適な排泄を援助していきたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ本人の希望を考慮して、入浴時間や回数を決めている。健康状態の配慮や事故防止に気をつけながら、できるだけ本人がゆったり入れるように見守っている。身体的、精神的に入浴に困難を抱えている方には、時間をかけたり、2名で介助するなどして、安心して安全に入浴できるように配慮している。	○	重度化し、一般浴槽での入浴が難しくなっていく利用者には、複合施設内の他の入浴施設を利用できるように、協力を依頼し、調整を図っていく。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンの中で、睡眠や休息が取れているかを考えている。睡眠状況を観察し、安眠を阻害する要件を取り除くようにしている。日中の活動を考え、夜間の安眠に結びつけるようにしているが、各人の状態に合わせて休息も勧める。不安な気持ちがあれば、話をしたり、寄り添ったりして安眠できるようにしている。	○	いろいろな選択肢を持ち、本人の状況と気持ちを尊重してケアしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりの出来ることを見出して役割を持っていただき、それを自信や活力につなげる取り組みを行っている。一緒に行ったり、職員に教えたり、それに対しては感謝の言葉を伝えている。生活暦の中から、今でも可能なことをさりげなく提供し、それが本人の喜びや気晴らしにもつながっている。	○	趣味を生かしての外出、買い物などの役割としての外出、習慣としての散歩などにより、外に出て行く機会を増やし、気晴らしをしたり、行動範囲の拡大につなげていく。

グリーンクリスタルONE

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金は、ご家族の了承のもとに自己管理している方もいる。その他の方でも、機会あるごとに自分のお小遣いとして買い物をしていただいたり、食材購入の際に、支払いを行ってもらったりしている。しかし、近所に店がなく、日々金銭を使う環境にない。	○	できる限り機会を増やす努力をしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の状態や、希望を取り入れてホーム周辺への散歩は日常行っている。その他、買い物やドライブの支援を行っている。買い物は、お茶を飲みながら広告を見て、急に出かけることもある。	○	立地上、散歩以外に日常的に外出する機会は少ないのが現状であるが、地域の方たちとふれあう機会を増やし、行き先を増やしていくことを進めていきたい。(近所の職員の家、美容室など)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画を作り、四季折々に様々なところに出かけていく。外食は、ご利用者の状況に合わせてグループごとに出かけるようにしている。希望に応じて、お墓参りや自宅へ行くことを支援したりしている。外出や行事の折にはご家族の協力をいただきながら、ともに楽しんでいただけるように考えている。	○	より個々の希望が出てくるような働きかけを行い、希望に合わせた支援を行えるようにしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人とご家族の意向を聞いて、それに沿って援助している。ご家族や知人からの電話は歓迎している。また、こちらから手紙を書く支援も行っている。ご家族に協力いただいて、返事を書いていただき文通しているケースもある。	○	季節の挨拶の手紙だけでなく、日常的に書いていくような働きかけを増やしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間や面会人などの制限は全くない。外出・外泊も自由で、宿泊も可能である。ご家族や関係者には、できるだけホームへ足を運んで欲しいと話している。行事や家族会の時などは、日頃来られないご家族もみえて、気軽にきていただけるきっかけになっている。	○	地域からの入居者が増えている中で、家族以外にもそれまでの関係や交流が継続できるように支援していきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを、職員全員で確認しあっている。勉強会のテーマとしても取り上げ学んでいる。直接的に身体を縛るだけでなく、施設や、本人の意思を無視した誘導や行動制限なども身体拘束となると理解して取り組んでいる。	○	定期的に勉強会に取り上げて、常に確認していきたい。

グリーンクリスタルONE

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵のかかっている空間にいる異常さを職員は理解しており、各出入口は夜間を除いて施錠しない。センサーを設置し、各利用者の行動パターンを理解し、注意を払うことにより離設の事故を防いでいる。万が一離設の際は、複合施設との協力体制のもと捜索するようになっており、捜索用のデータもすぐに作成できるようにしている。	○	運営推進会議を通じて、近隣の方の協力を仰ぐ方向で話を進めている。また、駐在所、消防団とも協力体制を整えていきたい。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日勤時間帯は複数名の職員が連携を取り合いながら、利用者の安全確保と所在確認に努めている。居室内での転倒の危険が高いご利用者は、プライバシーに配慮しながら、最低限のセンサーにより、動作を把握している。夜間は、定時巡視と、センサー音、職員の場所の工夫により、利用者の動向の把握や必要時の対応ができるようにしている。	○	重度化が進む中で、より難しくなっているのだが、職員の意識と様々な工夫により安全を確保していきたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の持ち物については、状況を見ながら安全性を考えている。はさみや針などを日常的に居室で使われる方もいる。全体では、薬は施錠できる保管庫、洗剤や薬剤等は安全な場所を考えて保管している。整理整頓に努め、施錠すべきところや保管すべき場所などは確実に守れるように心がけている。刃物を扱う際には職員が付き添い、見守りを行うようにしている。	○	日々変る状況を見逃さず、尚且つ必要以上に管理することのないようにしていきたい。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	インシデントアクシデントの報告書が作成され、スタッフ間で解決策や対応策が立てられている。スタッフ会議や勉強会でも事例検討や知識の習得を行い、再発防止や緊急時の対応を検討している。事故以前の細かい事象も記録され、集計・分析し防止に役立っている。 消防、離設、緊急時などのマニュアルを作成しており、緊急時に備えるとともに、意識の向上を図っている。	○	日々変る状況を見逃さず、尚且つ必要以上に管理することのないようにしていきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年行われる、普通救急救命講習を受講し、新入職員以外全員が受講済み。急変時に備え、看護師が中心となって勉強会を開催したり、緊急時の職員応援体制なども整備してあり、必要な職員がいち早く駆けつけることができるようになってきている。 施設入り口にはAEDも設置され、講習も受けた。	○	全員が緊急時に練習や講習通りにできるかどうかは難しい。定期的の実技講習や訓練を取り入れていく必要がある。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、複合施設全体の夜間と昼間想定の防災訓練を実施し、利用者本人も参加している。その後のスタッフ会議などで、グループホームが出火元になった際の初期対応について話し合ったり、設備面での工夫をしている。施設全体の地域との防災体制はあるが、グループホーム利用者の特性を理解していただいた上での協力体制の必要がある。	○	運営推進会議を通じての地域との協力体制づくりを進める。グループホーム独自の避難訓練を実施したり、具体的な避難方法の検討を進める必要がある。最近の地震の際、職員連絡体制をどのように行うかが課題になった。地震想定での避難を考え、訓練をする必要がある。ホーム独自の備品整備も行いたい。

グリーンクリスタルONE

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	グループホームでのその人らしい生活と、それに伴うリスクについては、入居前から家族等に説明を行い理解を得ているとともに、状況の変化に応じてその都度説明と理解を得ている。安全を優先し、拘束や服薬による管理を望んだ家族もいたが、認知症の理解や事業所の考え方や取り組みを説明し、理解を頂いてきた。リスクを考えた上でその人らしい生活をするを支援している。	○	今後もこの方針で実践していきたい。そのためには、こまめにご家族と話す機会を持つていくことが大切だと考えている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、服薬、食事摂取量、排便の有無などを含め健康管理表をつけることによって、異常の早期発見に努めている。看護師を中心に情報の共有化に努め、早期対応も心がけている。医師への連絡をこまめに、迅速に行うことによって、対応の遅れがないようにしている。	○	一人ひとりの『普通・いつもと変わらない』をスタッフ全員がわかって、異常により一層敏感になるようにしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は看護師を中心として一覧にし、皆がわかるようにしている。処方の変更される場合は、看護師から目的、用法、注意事項などが伝達される。服薬はそれぞれの利用者に合わせた支援方法を取り、健康管理表に記録し、確実な服用に繋げている。利用者の状況は、個人のケア記録に記入し、状態を確認している。	○	全員が薬の内容を理解できるように、勉強会で取り上げたり、分りやすい一覧を作成してレベルの向上を目指す。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	身体状況、中でも便秘が認知症状の憎悪につながることをスタッフは理解しており、個々に合わせて排便のチェックとコントロールを行っている。適度な運動を取り入れたり、牛乳やヨーグルトを摂ったり、食事内容に工夫をするなどして日頃の便秘予防に努めている。薬によるコントロールが必要な方も、様子をこまめにチェックして調整を行っている。	○	もっと普段の飲食物に工夫をしたり、腸の動きを高めるような運動を取り入れたりして、自然排便を促す取り組みを進めていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の習慣や力に応じて、口腔内の清潔の支援を行っている。歯磨きのための声掛けや見守り、義歯の洗浄など必要に応じたケアを行っている。重度化した方の場合は、スポンジブラシなどを利用してスタッフが関わることもある。義歯の洗浄の際は洗浄液の管理に注意するとともに、義歯を預けたことによる不安や不穏状態に注意をしている。	○	毎食後、全員の口腔ケアが徹底できているとは言えない。より積極的に行っていく。歯科医などの指導も受けていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表により、食事量や水分摂取量のチェックを行っている。個々の状態に応じて、食形態を工夫したり、栄養補助食品を利用して、栄養摂取量やバランスに気を配っている。場合によっては、食事介助することもあるが、できるだけ本人の意思で、本人の力で食べていただいている。栄養バランスやカロリー計算は、必要に応じて複合施設内の栄養士に依頼している。	○	複合施設利点を生かして、定期的な栄養士のチェックを取り入れていきたい。

グリーンクリスタルONE

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	複合施設のマニュアルとグループホーム独自のマニュアルを作成し、勉強会も行っている。発生時の施設全体の対応のほかに、感染症の知識、グループホームでの予防や蔓延防止を盛り込んでいる。また、経験を踏まえ、見直しも行っている。スタッフは日頃から感染症防止に努め、手洗い、うがいを励行している。	○	より知識の習得に努めていくとともに、日常の中で油断しないようにしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器洗い乾燥機を併用することによって、食器や調理器具の殺菌を行い、衛生管理に努めている。食材発注はこまめに行い、食材の賞味期限切れが生じないように管理している。新鮮で安全な食材を使うことを心がけている。	○	冷蔵庫や調理器具の衛生管理をより徹底させていく。
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、プランターや花壇を使って草花を植えたり、四季折々の飾りで季節を演出し、入りやすい雰囲気作りをしている。（こいのぼり、七夕飾り、クリスマス飾り、正月飾りなど）段差を無くした作りになっており、靴の履き替えの安全確保のためベンチや椅子を置いている。	○	日々の介護の中で、当たり前のようにになってしまい、後回しにされそうな課題だが、新鮮な目で意識的に見ていくことを続けたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾りをできるだけ利用者とスタッフが協同で作成して楽しむようにしている。食事作りを台所だけでなく、居間で行うことによって、皆が参加できたり、においや音で興味をそそられたり、食欲が出るように考えている。音楽やテレビなどは、利用者と相談してつけたり消したりしており、不快な音や刺激がないように心がけている。	○	日々の介護の中で、当たり前のようにになってしまい、後回しにされそうな課題だが、新鮮な目で意識的に見ていくことを続けたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・食道には様々なテーブル、椅子、ソファを配置し、思い思いに過ごせるようにしている。また廊下や踊り場にはソファを配し、一人で過ごしたり、気の合った仲間とくつろげる場所となっている。ベランダには縁台が置いてあり、天気の良いときは外で過ごすこともできるようになっている。	○	利用者の安全に配慮しつつ、殺風景にならないような工夫を凝らしていきたい。

グリーンクリスタルONE

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居に際しては、本人の使い慣れた馴染みのあるもの を持ち込む効果を説明し、協力を頂いている。仏壇を 置いていたり様々な写真を飾ったり、使い慣れた家具 を置くなどして、居心地のよい空間作りをしている。	○	都度見直し、ご家族と相談しながら支援してい きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大 きな差がないよう配慮し、利用者の状 況に応じてこまめに行っている	毎朝窓を開けての換気は基本と考えている。気になる においのある居室は、ご利用者のプライドや安全性に 配慮して、消臭剤を置いたり、こまめな換気では ないがこもらない様になっている。温度は空調により管理 することが多いが、常に温度・湿度を気にして調節して いる。極端な温度調節はせず、室内でも季節を感じる ことができるように考えている。	○	一人ひとりの希望や体調に考慮し、よりこまめな 対応を心がけていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	全体がバリアフリーの作りになっていて、随所に手す りも設置され、高齢者が安心して移動できる作り になっている。車椅子の利用も可能となっている。個々 の状況に合わせて、居室内に手すりを設置したり、 ベッド柵を設置したりしている。共用のトイレや浴室 も全体の安全を考慮して、補助的な手すりを設置して いる。瀬の低い利用者に合わせて、炊事台を作るな ど工夫を行っている。	○	今後も一人ひとりに合わせて、細かな気配りと工 夫を凝らしていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	各居室の入り口が見えにくく、同じようなつくりな ので、写真入のドアプレートを作成して居室が分るよ うにしている。また昔の生活や仕事を考え、自分の場所 と認識できる工夫を行ったりしている。(職員室など) 状況が変わったり、混乱が生じた場合は、カンファレ ンスをこまめに行い、利用者の視点で考えて様々な方 法を考え、スタッフが共通の対応ができるようにして いる。	○	後手に回らず、状況の変化に合わせて対応してい くことを続けたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ベランダから庭まで段差なく行けるようになってお り、車椅子でも外に出られるようになっている。ベラ ンダでの洗濯物干し、畑や花壇の手入れ、芝生の草取 りなどを行ったり、ベランダの縁台で過ごすこともあ る。	○	季節の良い時期は、日常的に外で過ごせるよ うな工夫を増やしていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

グリーンクリスタルONE

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ② 少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

豊かな自然に囲まれた環境の中で、「共に暮らす幸せ」「心安らかに暮らせる日々」を目指すことを理念に掲げ、ご利用者が『生き活きと生きる』ことを支援しています。ご利用者の視点に立ち、個々のご利用者を十分に理解して、スタッフ全員で個別の支援を組み立てています。医療との連携の体制をつくり、併設の複合施設の利点を活かしていくことによって、可能な限り最期までグループホームでの生活を支えたいと考えています。最近では、ご家族や関係機関の協力をいただきながら、看取りまで行うケースが増えてきています。今年度からショートステイ事業を加え、通所介護も導入に向けて検討中です。地域の皆様に理解され、協力いただきながら、地域のニーズに応えていけるグループホームでありたいと思っています。